

2015（平成27）年度

F D研究部会活動報告書

第7号

徳島文理大学
徳島文理大学短期大学部

巻頭言

大学設置基準の大綱化以降、全国の大学では、組織的な研究・研修が図られるようになるとともに、学士課程でのFD（ファカルティ・ディベロップメント）義務化に伴って、個々に工夫を凝らした教育研修活動が行われている。

そもそもFDとは、「それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修」と提言されたことに始まるようであるが、今日では様々な形態での組織的教育活動の総称として用いられている。経営学などにみられるオーガニゼーション・ディベロップメントの影響からか、組織の目標と個人の能力向上の接点を持たせるという定義もあるようで、FDも組織としての教育の向上を図ることを大目標とし、その中で個人の教育の向上を図るのが大方の理解するところであろう。

多くの大学教員は、学生時代に教育技法を学ぶことなく教える側に回ることから、教育に孤独感を覚えることとなり、自己研修に待つというのでは一人ひとりの負担が余りに大きく、やはり集団で研修する方がよいとの考えになる。教育内容・方法についての組織的な研究・研修は、大学単位、あるいはファカルティという単位で行われるものもあるが、学科単位で行われるものもある。そこでは、一人ひとりの教員が教育集団としての一員であるという意識を持つことが求められ、教育目標が定められて自分の役割を果たすためには、自己の教育能力の向上が必要だという認識の芽生えが期待される。

本学のFD事業は、研修会や講習会の開催、授業評価アンケートの実施、研究授業、卒業生満足度評価アンケートの実施に至るまで多岐にわたる。古田 昇部会長をはじめFD研究部部員、事務局の皆さんは総じて熱心で頭の下がる思いであるが、一方その熱意が全学に広まり、個々の教員の意識にまで浸透しているかとなるといささか心もとない。折角の外部講師による講演会など、ICT利用により全教員が受講したと確認できるようなシステム作りも必要な時期にあると思う。

本活動報告書は、年報として個々の活動実績を示す資料とともに、この1年間の自己評価が述べられている。これまでの報告書と併せ通覧すると、年次的な進歩の足跡が読み取れるであろうが、その理念と思いが遍く教員に伝わることを念じて、はじめのご挨拶とする。

副学長 千田 彰一

F D 研究部会活動報告書

目 次

1. はじめに	1
2. F D活動の内容	1
3. 研修会・講演会	2
4. 全学授業評価アンケート	4
5. 研究授業	4
6. 卒業生満足度評価アンケート	10
7. I C T利用による運営改善	12
8. おわりに	15
9. 用語解説	16
(資料編)	
1. F D研究部会会議	17
2. 研修会・講演会	19
3. 全学授業評価アンケート	22
4. 研究授業	32
5. 卒業生満足度評価アンケート	36

1. はじめに

「徳島文理大学FD研究部会」は、学士課程のFD義務化を受け、全学的FD活動の推進・支援を目的として平成19年12月に設立された全学委員会の一つである。設立以降の活動の詳細は、「FD研究部会活動報告書」（平成22年5月創刊、以降年次刊行）にまとめられている。本報告書（第7号）は、平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）の活動成果抄録である。ご一読いただき、ご意見・ご要望を各学部のFD委員までお寄せいただければ幸いである。

2. FD活動の内容

FD研究部会は、部会長、短期大学部を含む全学部より選出された部会委員に加えて両キャンパスの教育・研究支援グループ委員で構成され、月例のFD研究部会において①研修会・講演会、②全学授業評価アンケート、③研究授業、④卒業生満足度評価アンケート、⑤教育環境の各カテゴリーの活動を分担して行っている。（資料編1）

FD研修会・講演会については、一昨年度より継続しているアクティブ・ラーニングの普及を更に進めた。本年度の取り組みとしては、徳島文理大学の専任教職員を講師として講演会を開催したことである。また、本学開催の講演会の外部への公開を行い、近隣他大学を始め、県外からの参加者を得たことも本年度の特筆点である。

そのほか四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)主催の多様な研修会に加え、他地区の研修会等へも積極的に参加いただいたため、より多様な情報のフィードバックが可能となってきた。これからも、様々なメーリングリストへの加盟、ワークショップのインフォメーションの活性化を更に図り、FD活動の活性化に寄与していきたいと考えている。

次年度以降への課題としては、より多くの教職員の参加を促すことである。長期の実習や演習を必須とする学部・学科を多く抱えている本学の特性から、研修会開催時期にやむなく参加できない教職員も少なからずいる。学内LANを使って、研修会の映像の後日視聴を充実させ、より効果的な改善を進めたい。

全学授業評価アンケートについては、本年度は前期・後期の通年実施とした。単年度の評価を真摯に受け止めるとともに、複数年の横断分析が可能なシステムを活用し、より効果的な授業に向けた改善の取り組みに活用していただきたいと考える。さらに、来年度から、アンケート項目、実施時期、方法等を含めた全面的なシステムの改良を予定しており、今後、議論を深めていきたい。

研究授業については、講義科目中心の授業参観型に加え、課題解決型や実習・演習科目の公開など新たなプランも積極的に取り入れていただいた。本年度は、実施形態や参加者、コメントも含めて本文に詳しく分析しているので、ご参照いただきたい。なお、昨年度からの課題である、各学部・学科で実施している実習・演習型の授業についても、研究授業の一環としてぜひ取り入れていただけることをお願いしたい。

卒業生満足度評価アンケートについては、徳島キャンパスでは紙媒体で、香川キャンパスでは全学部とも電子化で行った。実施方式等が異なるため両キャンパスでのスコアを単純に比較することはできなくなったが、香川キャンパスで先行実施している電子化

について2年間の検証で問題点がなかったため、来年度は全学での電子化も可能である
と考える。ただし、学内の特定教員にボランティアでプログラミングや管理等をいつま
でもお願いするわけにいかないため、本格実施のためには、この点の整理が必要であり、
予算化が前提となる。

最後に、現状調査と課題把握を目的に行った両キャンパスの教育環境の調査について
は、キャンパス毎に情報システムが微妙に異なることや、授業でのアクティブ・ラー
ニングの実施など学生が積極的に参加できる環境整備の工夫がより一層必要であることが
浮き彫りになった。また、学生が日常使い慣れている情報機器を活用してのシステム化
の検討も今後の課題といえる。初等・中等教育でアクティブ・ラーニングの普及が加速
する中、大学として、より効果的な授業改善に向け、検証も含めて取り組んでいけるよ
うに、FD活動を推進していきたい。

3. 研修会・講演会

3-1 現状

FDとは、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称で
あり、その意味するところは極めて広範にわたる。教育技法について先進的な取り組み
を行っている経験豊かな教員から知識や技法を修得することは、本学教員の資質開発に
焦点を置いたFD活動の柱のひとつであり、これまでも外部講師を招いた本学独自の
講演会やSPODの遠隔配信プログラムを利用した講演会を開催してきた。平成27年度
には、より効果的な研修会・講演会とするため、二つの改善を行った。

一つ目の改善は、昨年度までは外部講師を本学に招いて開催する年2回のFD研修
会・講演会と、年数講座のSPODの遠隔配信プログラムの2つのタイプの研修会・講
演会が中心であったものを、平成27年度は、これらに加え、本学教員が講師として開
催する研修会・講演会を開催したことである(第2回、第6回)。本学の環境や現状を
把握した教員が講師を務めることで、受講者の要求に沿った内容で、より実践的な講
演会を開催することが可能になった。これまでは学内講演会とSPODの講演会を別々に
案内していたが、3つのタイプの講演会を開催することになったため、全ての研修会・
講演会を通し番号で表記することにした。二つ目の改善は、外部講師を招いての研修
会・講演会について学外にも受講を呼びかけて開放した点である(第7回)。これら二
つの改善は、これまでの受動的なFD活動を、より能動的なFD活動に変えることにつ
ながるとともに、本学からの情報を発信することで、本学のFD活動がより一層発展す
ることを期待している。

平成27年度は、全学対象の研修会・講演会を7回開催した。以下に開催日、講演タ
イトル、参加者を列記する。第1回は8月21日(金)にSPOD遠隔配信「ルーブリッ
ク評価入門」を開催し、徳島・香川両キャンパス合わせて44名が受講した。第2回は
9月1日(火)に本学教員の林向達先生(人間生活学部児童学科)による「大学アカウ
ント活用法 ～メール以外のサービスの利用術～」を開催し、両キャンパス合わせて
69名が受講した。第3回は、9月8日(火)にSPOD遠隔配信「大人数講義法の基

本」を開催し、両キャンパス合わせて36名が受講した。第4回は9月10日（木）に、SPOD講師派遣プログラムを活用して、立川明先生（高知大学総合教育センター准教授）を徳島キャンパスに招き、「受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り」を開催し、両キャンパス合わせて50名が参加した。第5回は9月14日（月）に、SD・FD講演会「大学は進化する」を開催し、両キャンパスで213名が参加した。第6回は11月17日（火）に本学教員の青野透先生（総合政策学部教授）がSD・FD講演会「気になる学生への組織的対応 - 障害者の自立を目指す障害者差別解消法の来年4月施行を前に」の講演を行い、両キャンパス合わせて211名が受講した。第7回は平成28年2月25日（木）に、鈴木克明先生（熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻長）を徳島キャンパスにお招きし、「インストラクショナルデザイン入門～教育事例の課題の発見と改善方法の選び方～」を開催した。本講演会は、SPOD加盟校、徳島・香川の教育委員会と高等学校教員にも開放し、本学教員100名に加えて、学外から7名（徳島5、香川1、高知1）が受講した。

全教員対象の研修会・講演会の他にも、10月20日（火）には看護学科のFD研修会「作ってみよう、ぶれない、ズレない学習評価基準ルーブリック（森田敏子先生）」を看護学科以外の教員も含め全学に案内した。その他、本学以外で開催された新任教員研修やSPODフォーラム2015の案内を行い、教員の自発的な参加を促した。

3-2 点検・評価

FDに関する研修会・講演会は、FDの意義や必要性について多くの教員の理解を深めるとともに、実際の授業改善に寄与するスキルアップの機会の提供を目指している。こうした方向性に沿って、これまで本学のFD研修会・講演会を実施してきた。

研修会後のアンケート結果では、参加者の多くが授業改善に役立つ内容であったと高く評価している。また、自由記述欄には、参加者が研修内容を自らの講義に取り入れ、講義の質的向上に努めようとしていることが書かれており、FD研修会・講演会が、本学のFDについての理解を深め、意識改革やスキルアップの面で貢献できていると評価できる。

一方で、日程的な都合から研修会・講演会に参加出来なかった教員も多く、昨年度から講演者の了解を得て、録画の配信を始めた。現段階では、アクセス数の確認はできるが、内容を最後まで観ているかどうか不明であるため、受講者数にはカウントしていない。また、FD研究部会には、「研修会・講演会を受講する教員が固定されつつあり、全く参加しない教員がいる」との意見も寄せられている。より多くの教員がFD活動に自発的に参加するためには、受講者のニーズにマッチした内容の研修会・講演会を、タイミング良く提供することが重要である。

3-3 改善計画

本学のFD活動の進捗状況やFD研修会・講演会へのニーズを適切に見極めた上で、本学に必要な研修会・講演会を適時、継続的に提供することが重要である。アンケート結果からは、研修会・講演会への参加者増を求める声とともに、実際の講義に直ぐにも取り入れられる実践的内容を求める意見や、具体的な例示に対する要求が高い。本学

教員の関心が高いテーマを厳選し、個々の教員の教育力の向上発展につながる研修を企画することが求められている。また、本学には多くの学部・学科が存在し、それぞれに特色・状況が異なるため、研修会・講演会に対する要求も細分化されている。多様性に富んだ要求に答えるため、SPODなど他大学が持つ研修資源を積極的に活用し、研修機会の充実に努めるとともに、本学教員の中から優れた講師を発掘し、本学の実状にあった研修会・講演会を提供することに努めていきたい。さらに、FD活動に参加されていない（できない）教員への更なる情報提供と利便性の工夫も必要と考えている。

4. 全学授業評価アンケート

全学授業評価アンケートについては、平成 24 年度から新しくハイブリッド授業評価アンケート方式を導入した。これにより、先生方は電子化されたアンケート結果を分析（経年変化、全体平均との比較、クロス集計など）が可能となり、それを基にアクションプランシートを入力することができるようになった。また、学生への開示（アンケート結果とアクションプランシート）も統一してできるようになった。

平成 25 年度は前期実施とし、非常勤講師についても授業評価アンケートを開始した。平成 26 年度は第 3、第 4 クォータと後期授業の計 825 科目について実施した。そして、本年度は全期（クォータを含む）において実施した。

授業評価アンケートは授業の良し悪しを評価するためのものではなく、先生方がアンケート結果を基に授業をより良いものに改善していくためのものである。単年度の評価を真摯に受け止めるとともに、複数年の横断分析が可能なシステムを一層活用いただき、より分かりやすく効果的な授業に向けた改善の取り組みを進められることを期待したい。また、今後は、よりよい授業評価になるように、アンケート項目、実施時期、方法等を含めた全面的なシステムの改良に向けての議論を深めていきたいと考えている。

5 研究授業

5-1 現状

「研究授業」は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部において実施しており、今年で 8 年目となっている。平成 27 年度は、徳島キャンパスで 23 科目（前期 11 科目、後期 12 科目）、香川キャンパスで 10 科目（前期 4 科目、後期 6 科目）、両キャンパス合計 33 科目の研究授業が実施された。各学期の実施回数は、各学部及び各学科の教員数及び講義数の実情を踏まえながら決定している。各学部及び各学科は「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンクラスウィーク」という 3 つのスタイルから選択し、実施する手法を取っている。

(1) 目的

研究授業の開始当初より実施されているのは「教員相互の授業参観型」のスタイルである。このスタイルでは、授業参観者は、授業改善のために参考になるもの、取り入れられるものを見つけ、自分自身の授業に活かしていく。そして、各教員の教授法の向上

と、学生の理解力や思考力の向上を目指すことを目的としている。授業担当者の教授法に対し、悪い点を指摘するためのものではない。

2012年より導入した「目標設定型」は、教授方法や授業運営上の改善点をあらかじめ設定し、定めた期間の中で調査・研究するものである。効果的な授業技術の掘り起こし、それらの共有を主な目的としている。

「オープンクラスウィーク」は1週間の授業参観可能期間を設定することにより、教員が自由に参観しやすい環境を設けることを目的としている。

(2) 実施方法

昨年度に続き「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンクラスウィーク」の3つの選択肢を設け、各学部及び学科に実施を依頼した。「教員相互による授業参観型」もしくは「目標設定型」のどちらかを研究授業として選択し（両方実施も可能）、さらに希望する学部及び学科は「オープンクラスウィーク」も選択できる。

「教員相互による授業参観型」では、学期始めに各学部及び学科の授業担当者と研究授業を補助する授業協力者を定め、授業担当者は研究授業とする科目及び実施日を決定する。実施科目と実施日は、FD研究部会で情報をまとめ、全学の教員に対して周知している。参観範囲は、所属学部に関係なく誰でも参観可能である。研究授業の進行及び記録は授業協力者によって進められ、原則として、1講時90分の授業のうち、開始から60分を授業参観とし、残りの30分を授業担当者と授業協力者、そして授業参観者による意見交換会の時間としている。意見交換会では「1.目的」にある研究授業の主旨に基づき討議を行う。研究授業終了後は、別紙の様式（表1）にて授業担当者と授業協力者によって記録、報告される。その記録用紙は、研究授業実施後2週間以内に各学部のFD研究部員を通してFD研究部会へ提出することになっている。

表1 研究授業 記録

研究授業（教員相互の授業参観）記録				研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科		学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバスの番号)	()	実施代表者			
授業協力者		実施教室		実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
実施日時	平成 年 月 日 曜日 講時			目標の説明			
対象学生 (授業形態)	()			対象学年 または科目			
授業テーマ				具体的な数組み方法			
研究授業内容自己評価				結果			
研究授業参観者の意見・感想							
授業参観者数	名			協力教員数	名 (内訳)		

なお、文学部では、「教員相互による授業参観型」として実施している科目の他、新入生宿泊セミナー研修内で実施したグループワークのファシリテート（公開授業）も研究授業の対象としており、今年度も2科目が報告されている。

「目標設定型」は、授業技術向上のためのテーマや新しい取組み等を目標に挙げ、その目標を達成するために必要十分とされる実施期間を設定し、各学期始めに学内で公表する。その目標は、期間内に達成可能なものを設定するようにしている。実施代表者は期間終了後すみやかに実施した取組みについて研究授業の記録（表1）を作成し、FD研究部会に提出することになっている。

「オープンプラスウィーク」は、ある一定期間内、開講されている全講義を自由に聴講できる期間として設けたものである。対象となる科目の教員に対しては、期間中は講義室後部に椅子を設置、ドアの解放等、講義中に他の教員が自由に聴講できるような環境作りを心がける。聴講した教員は聴講回数及びコメント等をFD研究部員へ報告し、その報告を評価としている。

5-2 点検・評価

「教員相互による授業参観型」は、平成20年度から全学的に始めた研究授業であり、8年目を迎えている。表2に、8年間の学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数（名）の推移を示す。実施科目数はその年により変動はあるものの、昨年度は20科目、今年度は33科目と増加した。また授業参観者数も3年ぶりに増加しているが、これは、前期後期共に実施する学科が増えたためと考えられる。

表2 学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数（名）の推移

年度	平成20 2008		平成21 2009		平成22 2010		平成23 2011		平成24 2012		平成25 2013		平成26 2014		平成27 2015	
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
年間研究授業実施数	29	22	10	17	12	16	16	17	18	12	17	5	15	15	18	
香川薬学	薬学科	28	24	14	14	32	25、18	25、22、26	19、25、26	15	19		13	22	18	
文学部	日本文学	9	9	8			9		9			9		9、5	9	
	英語英米文学	1	3		4			2			3		4			
	文化財	3	3			26										
	宿泊セミナー						12		5		23					
	学部内合計	13	15	8	4	26	21	2	19	9	11	23	15	4	14	9
理工学部	機械創造	6		8	10		7			6		4		2		5
	電子情報		6			4		5		目標設定型		目標設定型		目標設定型		3
	ナノ物質	6		10		6	4			4	5			目標設定型		目標設定型
	臨床工学		8		11			2								
	学部内合計	12	14	18	21	10	11	7		10	5	4		2		8
薬学部	薬学科	10	5		7	5	7	8	5	2	7	4	7	7	未提出	未提出
	人間生活	6			5			2		1		2		2	3	
人間生活学部	食物栄養	3、3	4、3		3			4	4		2		2	1	4	2
	心理	2、3	5、4		2		5		2		1		2	2	3	
	児童	4、4	2、3		6			5			1		2	2	5	1
	メディアデザイン	4、6	4		3		4		目標設定型	4		目標設定型		1		4
	建築デザイン	4、2	3		4		3		5		2		1	3	2	
学部内合計	41	28		23		12	11	11	6		9		9	17	12	
総合政策学部	総合政策	10	11	8	8	5	6	6	8	4	5	6		6	5	10
音楽学部	音楽	13	3	4	2	3	3	4	3	3	3	0		目標設定型	0	2
保健福祉部	臨床工学								8			6				5
	診療放射線									7	5					
	人間福祉	4、5	1	2	2	3	3	1	1	1	1	1			1	
	理学療法					1	1	4	3		2	0			1	1
	看護	6、10	5	17	14	12	6	6	8	8	8	8	8	13	9	12
学部内合計	25	6	19	16	16	10	11	20	23	16	15	8	13	11	18	
短期大学部	保育	5	4													5
	生活科学		5	4				3								7
	商科	4			2		3									
	言語コミュニケーション				4		5				目標設定型					
	音楽			6		4		3								
学部内合計	9	9	10	6	7	8	6			目標設定型					12	
前・後期別 参加者数	161	115	67	101	86	110	98	139	119	62	80	30	54	69	89	
年間参加者総人数	161		182		187		208		258		142		84		158	

表 3 に、各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果を示す。各学部及び学科から提出された報告書によれば、「初めて『反転授業』というものを参観し、具体的にどのようなものか理解できた。」との意見が挙げられた他、「導入で、前回授業のポイントを確認することも必要ではないでしょうか。」など、授業改善に向けられた意見が出された学科もあった。

表 3 各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果

[教員相互による授業参観型] 授業参観者の意見 (研究授業報告書より一部抜粋：●好意的な意見 ■改善を提案する意見：全記録は別 CD 資料)
<p>(香川薬学部薬学科)</p> <p>●医療現場では、チーム医療が推進されているが、学生の授業において、職種の壁を取り払って、お互いの持ち味を生かして議論を深めることは、たいへん良い試みであった。</p> <p>■(クリッカーの投票を)もし評価に入れるのであれば、評価基準をはっきりさせる必要がある。</p>
<p>(文学部日本文学科)</p> <p>●卒業生で教職を志望し続ける者に対して、こちら側が果たせることは何かについて考えさせられた。また、我々と学生との経験に基づく差異を踏まえて指導する必要性と難しさを再認識した。</p>
<p>(文学部文化財学科)</p> <p>●各分野の先生方から、実際に現物を前にしながらの講義は、学生はもとより参加教員にも大変有意義であると思われた。</p> <p>■徒歩による移動に時間を要し、現地講義の時間が制約されたことはやむを得ないが、事前学習をさらに充実させておくことが必要かもしれない。</p>
<p>(理工学部電子情報工学科)</p> <p>●導入部において、利用する情報メディアや利用の目的など、多くの調査結果を学生へ提示することで、情報取得の携帯や利用方法の多様性を意識させたことも、理解を深める効果があったと思う。</p> <p>■インターネットの利用におけるリスクだけでなく、インターネットを効果的に利用するための手法についても学修させることが望ましいと思います。</p>
<p>(保健福祉学部臨床工学科)</p> <p>●対話型授業形式で学生の意見や学力チェックをしている点が良い。</p> <p>●先生の臨床経験から論理的に説明がなされており学生の記憶に残るよう工夫されている。</p> <p>■講義内容についての理解を定着させる工夫があればよりよい授業となる。</p>
<p>(理工学部機械創造工学科)</p> <p>●毎回、専用の用紙に講義メモを書かせることで、学生の理解が深まるメリットがある。</p> <p>●講義メモに友人のレビューをもらうのは、互いに考えさせ、さらにコミュニケーションを奨励する効果もある。</p>
<p>(人間生活学部人間生活学科)</p> <p>●配布プリントを使うことにより、必要な(重要な)ポイントを板書し、話による説明時間が確保されている。わかりやすい講義を志向していることがうかがわれた。授業内容をレポート形式で提出する方法は参考にしたい。</p> <p>■授業改善のためには、授業中に学生への質問を入れるなど、学生の理解度を確認しながら授業を進め</p>

るようにすべきと思う。

(人間生活学部食物栄養学科)

- 白板に赤や青のマーカーで重要ところが強調されており、分かりやすかった。
- 教科書のページ数を表記することで、どこの話をしているかが分かり、後でも確認しやすくなっている良かった。
- 分かりやすい授業だったと思いますが、もう少し内容を増やした方が良いのではないかと思います。

(人間生活学部心理学科)

- 3色の付箋を使い、集団討議させるなど、生徒のアクティブ・ラーニングを促す工夫がされていた。
- 授業中に受講生に発言を求める機会があれば、より活性化したかなとも思います。

(人間生活学部児童学科)

- 評価基準を一人ひとりに配り、その中から他の班に使う正規の言葉が選択できるよう配慮していたのはさすがだと思った。
- 前時の作品を見ながら、「素晴らしい所を褒める・認める」ことで学生の気持ちが前向きになってどんどん意欲的になっていることが感じられた。

(人間生活学部メディアデザイン学科)

- 授業の最初にその日の概要を説明し、今回の授業の全体像を学生に把握させたことは、学生に動機づけに繋がったのは良かった。
- 説明する言葉を選び、スピードを心がけていたので、学生は理解しやすかったと感じた。

(人間生活学部建築デザイン学科)

- 学生を例題の解答に参画させる方法は良いと思いました。
- 折々の学生への質問を交えて学生を引き寄せる授業を感じた。

(総合政策学部総合政策学科)

- 初めて「反転授業」というものを参観し、具体的にどのようなものか理解できた。
- 予習内容を文章にまとめて報告させる方法は、ディスカッションを活発にすることにつながる良い方法だと思われる。
- 身近な資料を利用して、表現の自由について理解させる方法は大いに参考になる。
- 2年目ということだが、予習教材の提供システム化が、個人では難しそうに思われた。

(音楽学部音楽学科)

- 2台ピアノのレッスンは見る機会が少ないのでとても貴重であった。
- 演奏だけでなく、演奏会を企画する際の段階の話も聞いたことが良かった。

(保健福祉学部看護学科)

- 授業のはじめに復習の時間があるのは、知識の定着に効果的だと思う。
- 予習・復習の習慣づけのため、事前にテキストの図を指定してノートに解剖図と名称を書くなど宿題(予習)を指示すれば勉強の習慣が付き、ついていけない学生が少なくなるのではないかな。

(保健福祉学部人間福祉学科)

- パワーポイントを使用した講義で、字が大きく見えやすく、大切な部分は色を変えている。資料は、学生が【 】の中に描き入れるように作成しており工夫されている。

(短期大学部)

- 授業中、受講生に対してテキストに線を引かせるなど、常に作業をさせてスリープモードに入らない

ようにしている点がすばらしいと思います。

■導入で、前回授業のポイントを確認することも必要ではないでしょうか。

[目標設定型] 具体的効果 (研究授業報告書より一部抜粋)

(理工学部ナノ物質工学科)

目標：卒業研究に関する内容、目的を理解し説明する能力を身につける。

効果：卒業研究に対する意識を高める効果は顕著に見られた。また、例年よりも早く卒業研究に着手する学生が増加し、就職活動にも好影響をもたらしたと思われる。

「目標設定型」と「オープncラスウィーク」は、研究授業開始当初より行われてきた「教員相互による授業参観型」のマンネリ化が起こり始めた時、新たな取り組みとして実施されるようになったものである。

今年度の「目標設定型」の実施は、理工学部ナノ物質工学科が行った。研究授業の目標は、「卒業研究に関する内容、目的を理解し説明する能力を身につける。」であった。報告書によると、「学生が卒業研究に対する意識を高める効果は顕著に見られ、また、例年よりも早く卒業研究に着手する学生が増加し、就職活動にも好影響をもたらしたと思われる。」と報告されている。

「オープncラスウィーク」については、2011年に理工学部が試験的に取り入れ、その翌年から希望する学部が実施するようになった。理工学部は2011年より毎年実施しており、昨年度は文学部が初めて実施した。今年度は、理工学部が11月16日～11月20日に実施を予定していたが、昨年度の参加者がゼロであったことから、最終的には実施しなかった。表4に、オープncラスウィーク実施予定学部からの意見を示す。報告によると、今後も実施する可能性は少ないようである。

表4 オープncラスウィーク実施予定学部からの意見

理工学部
理工学部教授総会において、下記の意見があったため、今年度は実施しなかった。 <ul style="list-style-type: none">・昨年度の参加者がゼロだったため、今年度の実施について再検討した。・研究授業をしているため、オープncラスウィークの必要性を感じない。・次年度も実施しない可能性が高い。

5-3 改善計画

次年度も引き続き、各学部及び学科がより適当であると考えられる研究授業の手法（教員相互による授業参観型と目標設定型）を選択することが望ましいと考える。しかし、1講義あたりの研究授業の参加者数は少なく、研究授業への関心が少ない。より多くの教員に参加してもらえるように改善していきたい。また、研究授業の評価法も定まっていないため、今後は研究授業の評価の方策についても検討していきたい。

「オープncラスウィーク」については、その意義と実施について考え直す必要がある。試行期間を含めると実施開始より5年が経つが、実施学部は限られており、参加

者数がごくわずかであったり、参加者がいなかったりするため、次年度に選択肢として取り上げるかどうかを検討する必要がある。

アクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業については、次年度も継続して実施を推進していきたい。

6. 卒業生満足度評価アンケート

6-1 現状

卒業生満足度評価アンケートは、学生が卒業時に、入学時から卒業までの期間における学生生活を振り返り、本学の教育に対する評価を受け、教育の充実と改善に資する資料を得ることを目的に行われ、外部への情報発信の役割も併せ持つものである。

このアンケートに関する近年の経緯を概説すると、平成 21 年度～平成 24 年度（4 年間）は、それまでの調査経緯と結果を踏まえ、『2012（平成 24）年度 F D 研究部会活動報告書』に、その分析と課題提言を掲載した。平成 25 年度は、前年度の分析と課題提言を受けて調査項目を再検討し、教育方法が改善できるような観点での質問項目に変更し、『2013（平成 25）年度 F D 研究部会活動報告書』に、その結果と今後の検討課題を掲載した。

平成 26 年度は、数年間は同じ質問項目で経緯をみる必要があると判断し、質問項目は同じとした。ただし、『2013（平成 25）年度 F D 研究部会活動報告書』の検討課題である「ICT 技術を利用した回答方法の検討」を受け、新しい試みとして、理工学部（機械創造工学科、電子情報工学科、ナノ物質工学科、臨床工学科）の 4 学科の卒業生を対象に、PC やスマートフォンのブラウザからアンケートに回答してもらうシステムを実験的に導入した。その結果、実施前の回答目標値（50%）を大きく上回る回答（平均 85%）が得られた。これは、ひとえに理工学部電子情報工学科小林研究室の学生有志によるシステム開発と開発環境に HTML5、JavaScript、PHP、MySQL が用いられたことが大きく功を奏したと評価する。この新しい試みの結果と課題は、『2014（平成 26）年度 F D 研究部会活動報告書』に報告されているので、是非ご高覧頂きたい。

本年度（2015（平成 27）年度）は、これまでの経緯を受け質問項目は同じとし、調査方法は、「紙媒体のアンケート用紙：マークシート方式」と、「ICT 技術（Web）利用」の 2 つの方法のどちらかを各学部・学科による選択制とした。その結果、徳島キャンパスは「紙媒体のアンケート用紙：マークシート方式」となり、香川キャンパスは「ICT 技術（Web）利用」によるアンケートとなった。

回答時期は、徳島キャンパスは、卒業式後に各学部・学科に分かれて行う卒業証書及び学位授与式後とし、香川キャンパスは「ICT 技術（Web）利用」のため、一定期間（香川薬学部：2 月 11 日～3 月 20 日、文学部：2 月 1 日～3 月 17 日、保健福祉学部：2 月 10 日～3 月 17 日、理工学部：2 月 12 日～3 月 17 日）を設定し、回答期間内であれば、卒業予定者は回答内容の修正が何回でも可能とした。さらに、機会あるごとに複数回に渡って、アンケートに回答するよう学生に依頼した。

結果の予測としては、徳島キャンパスは卒業式後の各学部・学科に分かれて行う卒業証書及び学位授与式直後の調査であるため、ほぼ全員の出席が想定され、ある意味、晴れがましい気持ちの高揚心理が影響し、ある程度高い満足度で、かつ高い回収率が推測される。一方、香川キャンパスは、日常の学修活動を行っている環境の延長線のもと、一定期間を設定しての「ICT技術（Web）利用」調査であるため、ある意味、本音が言いやすいことから不満の声も反映され、かつ回収率は高くないことが想定される。

6-2 点検・評価

本年度の卒業生満足度評価アンケートは、963 人にアンケート用紙を配布またはアンケートに回答するWeb方式にて行い、856 人から回答を得、回収率 88.9%であった。徳島キャンパス、香川キャンパス、専攻科・研究生、短期大学別による内訳は資料編 5-1 に示す通りである。回収率からいえば、「アンケート用紙配布のマークシート方式」が高いが、本音が得られたかという観点から言えば、「Web方式」が多いかもしれない。

資料編 5-2 に示すように、全学全体の評価結果の概要を概観すると、最も高得点は、IV-4 の「良き友と出会いましたか」（4.62 点）であり、例年と同様であった。次に高得点は、V-1 の「総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか」（4.51 点）、次に、IV-3 の「頼りになる教員に出会いましたか」（4.47 点）であった。このことから、卒業生は学生時代に良き友と教員に出会い、学生生活に満足していることが推察される。

一方、低得点は、II-6 の「宿題やレポート提出が多いと感じていましたか」（3.40 点）であり、例年同様の結果であった。しかし、この質問の得点の解釈と判断は難しい。得点が高ければ、①宿題やレポートが多いと感じ、負担であったと解釈できるし、②宿題やレポートが多いと感じたけれども、大変学修になったとも解釈できるからである。経年的にみると、平成 25 年度は 3.17 点、平成 26 年度は 3.27 点、平成 27 年は 3.40 点であり、若干高得点へシフトしている傾向にある。

なお、学部全体（資料編 5-3）、短期大学部全体（資料編 5-4）、大学院全体（資料編 5-5）、専攻科全体（資料編 5-6）に分けて数値とグラフを示しているのでご高覧頂きたい。

自由記述欄には 200 件以上の意見が寄せられ、多くは良かった点について記述されていた。内容を整理すると、良い点は、①先生方の熱意 ②先生が親切、親身 ③設備の充実 ④清潔なキャンパス環境 ⑤就職支援センターの親身、⑥100 円定食で栄養管理などがあり、改善点としては、①図書館の利用時間の延長希望、蔵書数が少ないため図書配架増の要望、最新の図書の配架要望（図書が古いものがある）、②学食メニューのバラエティ要望（揚げ物率が高い、メニューが少ない、野菜が少ない）、定食が高い ③ポータルサイトの有効活用の要望、④学生支援の対応があまり良くない、⑤クラブ奨助金 5,000 円は少ないので増額希望、⑥ごく一部であるが教育改善してほしい教員がいる、⑦建物によってトイレの清潔度や設備が違いすぎる、順次、ウォシュレット対応にして欲しい、⑧コンビニの品物そろえ不足などであった。

6-3 改善計画（改善点）

(1) 「ICT技術（Web）利用」の理解と推進

卒業生満足度評価アンケートの本来の主旨を考えれば、卒業時期を迎えた学生が平常心の状態、本音による意見が得られる必要がある。卒業式の日全学生が集まるため調査しやすく都合が良いという教員の利便性の理由から調査日を決めているとしたら、真の意味で卒業生満足度評価アンケートにはならない。形式的にアンケートを実施し良い結果を得たとしても、バイアスがかかっていることを引き算して判断・評価しなければならない。だとしたら、いつ、どのような方法で調査するのか、もう一度、卒業生満足度評価アンケートの本来の目的や主旨に即して検討する必要がある。このように考えてくると、香川キャンパスが行ったように、ICT技術（Web）を利用して一定期間設定し、卒業見込み者にアクセスしてもらい回答を求める方法が良いと考えられ、「ICT技術（Web）利用」の理解と推進が必要となってくる。ただし、コストとID付与など一部の教員の負担と手間も考慮しなければならないので、費用対効果の検討も必要となる。いずれにしても、徳島キャンパスと香川キャンパスが同じ条件下（環境）で調査しなければ、両キャンパスで結果の意味合いや解釈が異なってくるので、単純には比較できない。

(2) 大学院研究科の卒業生満足度評価アンケートの検討

GPA を利用していない大学院研究科は、GPA の質問については集計できていない。そのため、大学院看護学研究科は今年度第 1 期の卒業生を輩出したが、GPA の項目は集計できていない。全学的に GPA の利用が決定しているのであれば、大学院でも今後検討し修了生に知らせていく必要がある。

そもそも、工学研究科は卒業生満足度評価アンケートを実施しておらず、大学院生をアンケートに加えるのか、除外するのかを検討する必要がある。

(3) 卒業生満足度評価アンケート結果を教育環境や教育改善に活かすシステム構築

これまで平成 21 年～平成 27 年度に渡り、6 年間卒業生満足度評価アンケートを行い、結果をまとめ、『報告書』（冊子体）を作成し、改善計画（改善点）に基づき、アンケートの方法論やシステムについて改善を行ってきたが、教育環境や教育改善に活かすには至っていない。多大な費用とエネルギーを費やし実施してきた卒業生満足度評価アンケートから得られた内容に教育環境や教育改善に活かす事項が見出されたならば、今後は、その結果を活かすシステムの構築が課題となってくる。卒業生の満足度あるいは不満足度をもとに、評価結果を活かし、機能していけるように、教育環境や教育改善のシステム（仕組み）を構築していく時期にきている。

7 ICT利用による運営改善

7-1 研修会・講演会のビデオ配信

本研究部会の活動のひとつである研修会・講演会は、年に 2 回程度開催されている。これらの会は教職員が参加しやすい日を選択して実施されているが、都合により参加できない教職員が少なからず存在する。また、講演内容を後日改めて確認したいという要

望もある。そこで、平成 26 年度から、講演者の許諾を得て研修会・講演会の様子をビデオ撮影し、学内ネットワーク限定で教職員がその録画ビデオを学内のパソコンやスマートフォン等の情報端末から都合の良いときにいつでも閲覧できるようにした。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL : <http://fd.bunri-u.ac.jp/videos/>

ビデオ配信は、原則として、講演会終了後約 1 週間から 1 年間ほど公開するよう部会で決められている。また、ビデオを再生するためには、教職員番号を入力している。表 5 に、平成 27 年に開催された研修会・講演会のビデオを再生した教職員数を示す。

表 5 平成 27 年に開催された研修会・講演会のビデオ閲覧数

講演タイトル	閲覧数
反転授業	41
大学アカウント活用法	18
受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	39

ビデオ配信に関しては、古いパソコンでは再生できない、学内ネットワーク限定だと不便だという要望・報告を受けた。これらは今後の検討課題である。

7-2 授業評価アンケート結果（アクションプランシート）の Web 公開

本学では全学的に学生による授業評価アンケートを実施している。各授業担当教員には、このアンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降のアクションプランの作成（われわれはこれをアクションプランシートと呼んでいる）を依頼している。このアンケートをはじめたときは、授業担当教員の研究室の扉にアクションプランシートを一定期間掲示するように担当教員に依頼をしていた。この方法だと、閲覧する場合には学生が研究室の前まで出向く必要があるし、確実に掲示されているかどうかを本部会が把握することが困難であった。そこで、2012 年度から、学内のネットワークを利用して学生に対して学部別にまとめたアクションプランシートを公開した。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL : <http://fd.bunri-u.ac.jp/eval/>

アクションプランシートは、PDF形式のファイルで公開されており、表示させるためにはパスワードの入力が必要である。学生には事前にメールでパスワードを通知し、所属学部のものだけを閲覧できるようにしている。

表 6 に、平成 27 年度前期に実施された授業評価アンケートのアクションプランシートの閲覧回数を示す。ここには平成 27 年度分のみを示しているが、のべ閲覧数は年々減少傾向にある。学生が授業改善のきっかけとなり得る授業評価アンケートの結果にもっと興味を持つような仕掛けが必要なのかもしれない。

表 6 アクションプランシート閲覧状況（平成 27 年度前期実施分）

キャンパス	学部専門／一般	のべ閲覧回数
徳島	一般総合（学部）	18
	一般総合（短期大学部）	4
	人間生活学部	52
	保健福祉学部	20
	総合政策学部	12
	音楽学部	0
	薬学部	31
	短期大学部	8
香川	非常勤講師担当	6
	一般総合（学部）	16
	保健福祉学部	26
	香川薬学部	59
	理工学部	32
	文学部	23
計	非常勤講師担当	2
		309

7-3 スマートフォンによる卒業生満足度調査アンケートの実施

本学では全学的に卒業を迎えた学生による卒業生満足度調査アンケートを平成 21 年度から実施している。指摘されている課題として、回答依頼者を全員一ヶ所に集めて実施することが難しいことや、実施コストが高いことが挙げられている。これらの課題の解決を試みるために、平成 26 年度から理工学部の卒業生に対して、また、平成 27 年度から香川キャンパス全体の卒業生に対して紙媒体での回答ではなく、パソコンやスマートフォンを利用した回答ができるようにシステムを開発した。

スマートフォンでの回答の場合、同一人物による複数回の回答を防ぐための仕掛けが必要である。これに関しては、学生が普段使用している学内ポータルサイトのログインIDとパスワードを活用した。ただし、紙媒体での場合と同様に、回答結果は誰が回答したものかわからないように処理している。また、アンケートの実施日を従来の学位記授与式（卒業式）当日ではなく、その日までの2週間程度を回答可能期間とした。学

位記授与式当日の実施では、評価が高くなりがちであるが、このような実施期間であれば、回答者は日常の雰囲気の中で回答することができ、より正確なものが得られると期待している。

一般に、スマートフォンなどでアンケートを実施した場合、回答率は悪くなると言われている。これまでにわれわれが他大学を調査した範囲では、大学における全学的なアンケートの回答率は、20%程度にとどまるのが普通であった。そこで、スマートフォンによる本アンケートでは、期間中に数回、メールや口頭による回答依頼を行った。

本システムを利用した場合の回答率などについては「6 卒業生満足度評価アンケート」で述べている。詳細な分析はこれからであるが、全体的な傾向として学位記授与式の日回答するよりも事前に回答するものの方が辛い評価になっている。そして、自由記述欄に要望を書いている件数が増えている。卒業生からのコメントや不満、要望などを多く収集したい場合は、今回の新たな試みが有効なのかもしれない。

7-4 点検・評価

ICTを利用してFD活動の一部を効率良く運用することを試みた。システム導入のための人的・経済的コストは低くはないが、一度導入をすれば効率よくFD活動を支援できることがわかった。ただし、すべての活動にICTを導入するのが良いということだけでなく、大幅に作業手順が変わらないような定型処理への導入が有効である。全国的に大規模大学においてIR (Institutional Research) の導入が盛んである。本学もIR導入を見据えたFDや教育活動におけるICT利用を今後もより推し進める必要があると考えている。

8. おわりに

徳島文理大学FD研究部会では、平成19年12月の発足より、学生のより深い学びを促進するため、様々な授業改善活動の取り組みを推進・支援してきた。

幸いにも、多くの教職員の賛同とご支援・ご援助をいただくとともに、継続的にFD活動に関わっていただける先生方も年々増加している。今後、すべての教職員に分かりやすく効果的な授業への改善活動へのご理解をいただき、様々な場面で自己のFD活動を行っていただけるように、更なるプログラムの充実と啓蒙に取り組んでいきたいと考えている。また、学生にとっては、教員のみならず職員に接することも多く、教職員一丸となつての支援が不可欠であることはいままでもない。本年度の活動に対する皆様のご尽力とご理解に感謝と敬意を申し上げますとともに、来年度もより幅広いFD活動を計画して進められるよう、教職員各位のより一層のご支援をお願いする次第である。

9. 用語解説

【SPOD】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。四国地区の大学及び高等専門学校との連携・協働によって、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある32の高等教育機関が加盟するネットワーク。

【ファカルティ・ディベロップメント（FD）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したもの。

【カリキュラム・ポリシー（CP）】

教育課程編成・実施の方針。DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したもの。

【アドミッション・ポリシー（AP）】

入学者受け入れ方針。各大学・学部がDPを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的・倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学修等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況を評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

【IR（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

資料編

1	F D 研究部会会議	17
1-1	F D 研究部会会議	
1-2	F D 研究部会委員一覧表	
1-3	F D 研究部会議事録【別 CD 資料】	
2	研修会・講演会	19
2-1	研修会・講演会実施一覧(学内)	
2-2	研修会・講演会参加一覧	
2-3	SPOD 会議参加一覧	
2-4	研修会・講演会プログラム及びアンケート【別 CD 資料】	
3	全学授業評価アンケート	22
3-1	平成 27(2015)年度 全学授業評価アンケート	
3-2	平成 27(2015)年度 前期・大学全体	
3-3	平成 27(2015)年度 前期・学部全体	
3-4	平成 27(2015)年度 前期・短期大学部全体	
3-5	平成 27(2015)年度 後期・大学全体	
3-6	平成 27(2015)年度 後期・学部全体	
3-7	平成 27(2015)年度 後期・短期大学部全体	
3-8	「学生による授業評価アンケート」実施要領	
3-9	授業評価アンケート結果のフィードバックについて(お願い)	
3-10	アクションプランシート様式	
3-11	アクションプランシートデータ【別 CD 資料】	
4	研究授業	32
4-1	平成 27(2015)年度 前期 研究授業一覧	
4-2	平成 27(2015)年度 後期 研究授業一覧	
4-3	研究授業(教員相互の授業参観)記録様式	
4-4	研究授業(目標設定型)記録様式	
4-5	研究授業の記録【別 CD 資料】	
5	卒業生満足度評価アンケート	36
5-1	平成 27(2015)年度 卒業生満足度評価アンケート	
5-2	平成 27(2015)年度 大学全体	
5-3	平成 27(2015)年度 学部全体	
5-4	平成 27(2015)年度 短期大学部全体	
5-5	平成 27(2015)年度 大学院全体	
5-6	平成 27(2015)年度 専攻科全体	
5-7	「卒業生満足度評価アンケート」の実施について(依頼)	
5-8	平成 27(2015)年度 学部学科別データ【別 CD 資料】	

平成27年度 FD研究部会会議

回数	日時	会場
第72回 FD研究部会	平成27年4月23日(木) 15:00~17:10	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第73回 FD研究部会	平成27年5月28日(木) 14:50~16:15	テレビ会議
第74回 FD研究部会	平成27年6月25日(木) 14:50~16:15	テレビ会議
第75回 FD研究部会	平成27年8月31日(月) 10:00~12:00	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第76回 FD研究部会	平成27年10月15日(木) 13:30~15:00	テレビ会議
第77回 FD研究部会	平成27年11月19日(木) 14:50~16:20	テレビ会議
第78回 FD研究部会	平成27年12月22日(火) 16:30~17:30	テレビ会議
第79回 FD研究部会	平成28年2月16日(火) 13:00~14:00	テレビ会議
第80回 FD研究部会	平成28年3月16日(水) 13:00~13:00	香川キャンパス 管理棟2階学園長室

平成27年度 F D 研究部会委員一覽表

	氏 名	所 属
副 学 長	千田 彰一	
部 会 長	古田 昇	文学部
部 員	秋田 昌彦	薬学部
〃	北川 明	人間生活学部
〃	森田 敏子	保健福祉学部(徳島 C)
〃	青野 透	総合政策学部
〃	橋本 誠志	総合政策学部
〃	千葉さやか	音楽学部
〃	則包 光徳	短期大学部
〃	加藤 善久	香川薬学部
〃	上田 雅彦	保健福祉学部(香川 C)
〃	箕田 康一	理工学部
〃	小林 郁典	理工学部
〃	篠田 裕	文学部
事 務 局	新見 延安	教育・研究支援 G(徳島 C)
〃	藤本 浩美	〃
〃	佐々木和昭	教育・研究支援 G(香川 C)

平成27年度 研修会・講演会実施一覧(学内)

- ①第1回FD研修会・講演会（SPOD遠隔配信）
 日時：平成27年8月21日(金) 13:00～15:00
 演題：ルーブリック評価入門
 ～ブレない・速い・楽チン成績評価のススメ～
 講師：清水栄子（愛媛大学教育企画室講師）
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 23名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 21名参加
- ②第2回FD研修会・講演会（徳島Cから香川Cへの遠隔配信）
 日時：平成27年9月1日(火) 13:30～15:00
 演題：大学アカウント活用法
 ～メール以外のサービスの利用術～
 講師：林 向達（人間生活学部准教授）
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 44名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 25名参加
- ③第3回FD研修会・講演会（SPOD遠隔配信）
 日時：平成27年9月8日(火) 15:30～17:30
 演題：大人数講義法の基本
 講師：小林直人（愛媛大学教育企画室長）
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 21名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 15名参加
- ④第4回FD研修会・講演会（徳島Cから香川Cへの遠隔配信）
 日時：平成27年9月10日(木) 13:00～15:00
 演題：受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り
 講師：立川 明（高知大学総合教育センター准教授）
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 24名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 26名参加
- ⑤第5回SD・FD研修会・講演会（徳島Cから香川Cへの遠隔配信）
 日時：平成27年9月14日(月) 16:00～17:00
 演題：大学は進化する
 講師：合田 隆史（尚綱学院大学学長）
 場所：徳島キャンパス アカンサスホール 141名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 72名参加
- ⑥第6回SD・FD研修会・講演会（徳島Cから香川Cへの遠隔配信）
 日時：平成27年11月17日(火) 16:00～17:00
 演題：気になる学生への組織的対応
 ～障害者の自立を目指す障害者差別解消法の来月4月施行を前に～
 講師：青野 透（総合政策学部教授）
 場所：徳島キャンパス アカンサスホール 163名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 48名参加
- ⑦第7回FD研修会・講演会（徳島キャンパスから外部への遠隔配信）
 日時：平成28年2月25日(木) 14:00～17:00
 演題：インストラクショナルデザイン入門
 ～教育事例の課題の発見と改善方法の選び方～
 講師：鈴木 克明先生（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授）
 場所：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 55名参加
 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 45名参加

平成 27 年度 研修会・講演会参加一覧
(SPOD研修会・フォーラム等参加)

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 27 年 5 月 13 日 (水) ～15 日 (金)	第 1 回大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修レベル I (SD)	SPOD 香川大学	香川大学	本部総務部 増井 貴俊
平成 27 年 5 月 21 日 (木) ～23 日 (土)	第 1 回次世代養成ゼミナール (SD)	SPOD 愛媛大学	徳島大学	庶務・渉外グループ 藤巻 晃
平成 27 年 6 月 20 日 (土) ～21 日 (日)	授業設計ワークショップ	SPOD 徳島大学	徳島大学	文学部 山本 義浩 理工学部 河合 浩行 香川薬学部 松尾 平
平成 27 年 7 月 16 日 (木) ～18 日 (土)	第 2 回次世代養成ゼミナール (SD)	SPOD	愛媛大学	庶務・渉外グループ 藤巻 晃
平成 27 年 7 月 23 日 (木)	管理監督者のためのメンタルヘルス研修 (SD)	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	教務グループ 郡 通子
平成 27 年 8 月 26 日 (水) ～28 日 (金)	SPODフォーラム2015	愛媛大学 SPOD	愛媛大学	文学部 古田 昇 篠田 裕 庶務・渉外グループ 藤巻 晃 河野 里沙 教務部 藤本 正己 増本 佐優美 中山 多佳子 藤本 浩美 情報センター 松下 宗孝 学生部 辻 めぐみ 香川キャンパス 学部事務グループ

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
				プ 近藤 陽子 教務部 鎌倉 法子 学生部 福田 トモコ 就職支援部 遠藤 真由美 板東 博士
平成 27 年 9 月 2 日 (月) ～3 日(火)	学生の学びを支援する授業 準備ワークショップ	高知大学	高知大学	看護学科 上田 伊佐子
平成 27 年 9 月 10 日 (木) ～11 日 (金)	第 2 回大学人・社会人として の基礎力養成プログラム研修レ ベル I (SD)	愛媛大学 SPOD	愛媛大学	香川キャンパス 学生支援グルー プ 鍋浦 久美
平成 27 年 9 月 17 日 (木) ～18 日 (金)	よりよい授業のためのFDワー クショップ	香川大学	香川大学	看護学科 古川 薫
平成 27 年 11 月 5 日 (木) ～7 日(土)	第 3 回次世代養成ゼミナール (SD)	SPOD	高知大学	庶務・渉外グルー プ 藤巻 晃
平成 27 年 11 月 23 日 (月)	インストラクショナルデザイン講 座	熊本大学	大阪駅前 第 3 ビル	理工学部 小林 郁典
平成 27 年 12 月 24 日 (木)	情報セキュリティに関する研修 会	徳島工業 短期大学 SPOD	徳島工業 短期大学	情報センター 松下 宗孝
平成 28 年 1 月 6 日 (水)	大学教育カンファレンス in 徳 島	徳島大学 FD委員会 SPOD	徳島大学	理工学部 小林 郁典 文学部 篠田 裕
平成 28 年 1 月 21 日 (木) ～22 日 (金)	第 4 回次世代養成ゼミナール (SD)	SPOD	愛媛大学	庶務・渉外グルー プ 藤巻 晃
平成 28 年 3 月 5 日 (土) ～6 日 (日)	2015 年度第 21 回FDフォー ラム	公益財団法 人 大学コンソーシアム京都	京都外国語大学	文学部 古田 昇

平成 27(2015)年度 全学授業評価アンケート

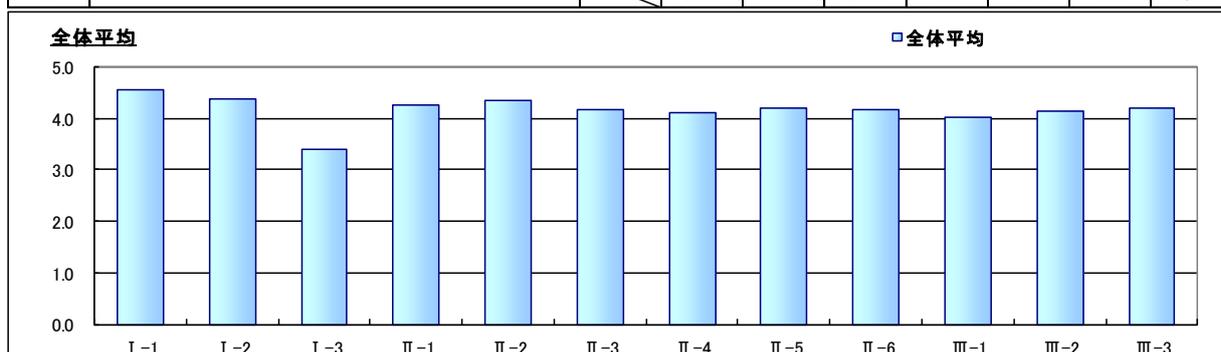
実施期間	<p>第1クォーター 平成27年 5月25日(月) ～ 6月 5日(金)</p> <p>前期・第4クォーター 平成27年 7月13日(月) ～ 7月28日(火)</p> <p>第3クォーター 平成27年11月11日(水) ～ 11月25日(水)</p> <p>後期・第4クォーター 平成28年 1月 7日(木) ～ 1月26日(火)</p>
実施科目・履修者数	<p>前期：864科目 40,627人 回答者数 34,063人 回答率 83.8%</p> <p>後期：790科目 34,671人 回答者数 28,445人 回答率 82.0%</p>
アクションプランシート 記入期間	<p>前期 平成27年 9月 8日(火) ～ 9月30日(水)</p> <p>後期 平成28年 3月 1日(火) ～ 3月16日(水)</p>
アクションプランシート 記載状況	<p>前期：87.4% (徳島 85.7%、香川 90.9%)</p> <p>後期：87.1% (徳島 85.3%、香川 90.2%)</p>

2015年度前期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

受講者数	40,627
回答者数	34,063

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらでもない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.56	22,595 66.6%	8,669 25.5%	2,028 6.0%	471 1.4%	187 0.6%	33,950	113
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.36	16,982 50.0%	13,227 38.9%	3,049 9.0%	502 1.5%	216 0.6%	33,976	87
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.40	7,756 22.9%	9,369 27.7%	9,084 26.9%	3,928 11.6%	3,694 10.9%	33,831	232
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらでも ない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.27	15,994 47.2%	12,129 35.8%	5,025 14.8%	462 1.4%	306 0.9%	33,916	147
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.35	18,084 53.3%	11,295 33.3%	3,477 10.2%	643 1.9%	438 1.3%	33,937	126
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.18	16,258 47.9%	10,902 32.1%	4,264 12.6%	1,616 4.8%	894 2.6%	33,934	129
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.12	15,125 44.6%	11,202 33.1%	4,923 14.5%	1,690 5.0%	953 2.8%	33,893	170
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.20	15,419 45.7%	11,732 34.8%	5,048 15.0%	1,020 3.0%	542 1.6%	33,761	302
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.17	15,498 45.8%	11,318 33.5%	5,079 15.0%	1,180 3.5%	747 2.2%	33,822	241
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらでも ない	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.01	11,669 34.5%	14,000 41.4%	5,744 17.0%	1,623 4.8%	821 2.4%	33,857	206
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.15	14,116 41.7%	12,950 38.3%	4,998 14.8%	1,107 3.3%	663 2.0%	33,834	229
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.21	15,712 46.5%	11,822 35.0%	4,534 13.4%	1,014 3.0%	697 2.1%	33,779	284
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			30.8%	34.6%	27.2%	2.9%	4.6%	526	33,537
2			31.3%	31.7%	26.0%	6.6%	4.4%	473	33,590
3			36.5%	34.3%	23.8%	1.4%	4.1%	370	33,693



2015年度前期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体) 徳島文理大学

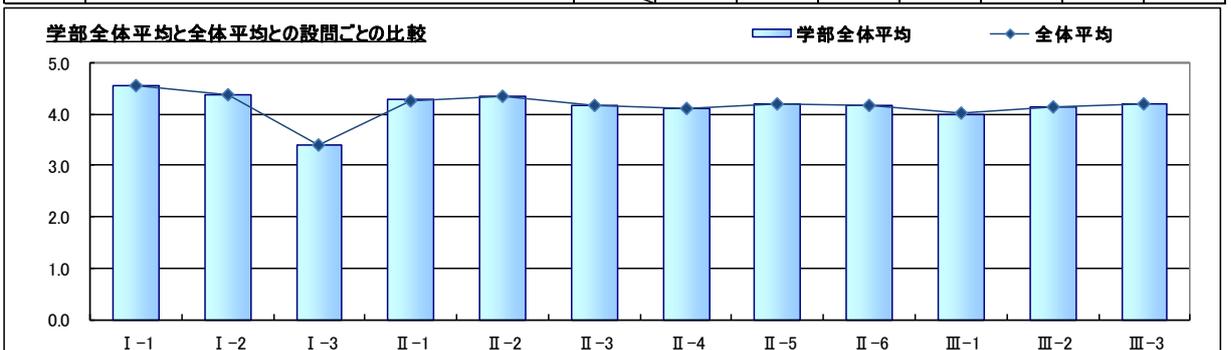
集計単位	学部全体	受講者数	37,031
		回答者数	30,959

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.57	20,672 67.0%	7,769 25.2%	1,824 5.9%	413 1.3%	174 0.6%	30,852	107
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.36	15,438 50.0%	11,998 38.9%	2,784 9.0%	456 1.5%	202 0.7%	30,878	81
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.41	7,119 23.2%	8,555 27.8%	8,157 26.5%	3,578 11.6%	3,325 10.8%	30,734	225

II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.27	14,565 47.2%	11,074 35.9%	4,488 14.6%	418 1.4%	281 0.9%	30,826	133
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.34	16,293 52.8%	10,310 33.4%	3,219 10.4%	608 2.0%	414 1.3%	30,844	115
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.17	14,685 47.6%	9,889 32.1%	3,917 12.7%	1,507 4.9%	842 2.7%	30,840	119
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.11	13,636 44.3%	10,154 33.0%	4,536 14.7%	1,572 5.1%	897 2.9%	30,795	164
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.19	13,854 45.2%	10,670 34.8%	4,675 15.2%	960 3.1%	510 1.7%	30,669	290
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.16	14,039 45.7%	10,223 33.3%	4,679 15.2%	1,089 3.5%	706 2.3%	30,736	223

III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	3.99	10,485 34.1%	12,695 41.3%	5,306 17.2%	1,503 4.9%	777 2.5%	30,766	193
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.14	12,758 41.5%	11,757 38.2%	4,584 14.9%	1,021 3.3%	620 2.0%	30,740	219
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.20	14,127 46.0%	10,774 35.1%	4,197 13.7%	940 3.1%	656 2.1%	30,694	265

IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			29.7%	33.3%	28.8%	3.0%	5.1%	468	30,491
2			29.6%	30.8%	27.5%	7.3%	4.9%	426	30,533
3			35.1%	32.9%	25.8%	1.5%	4.6%	325	30,634

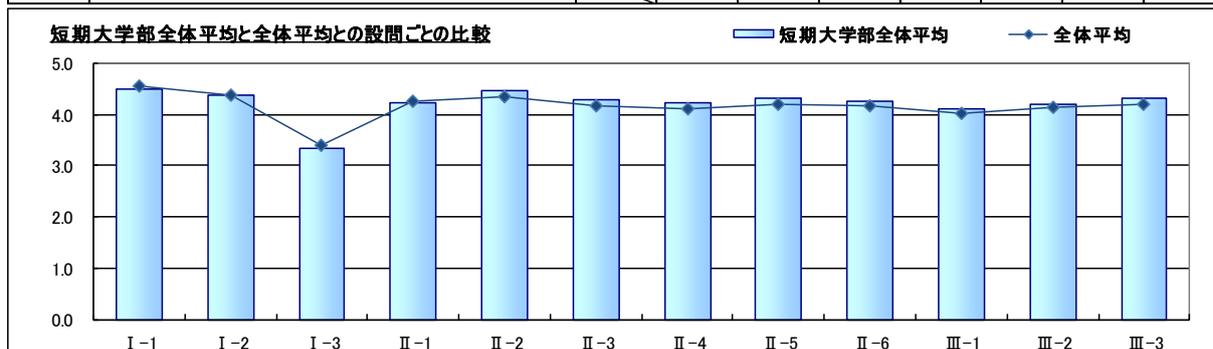


2015年度前期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

集計単位	短期大学部全体	受講者数	3,596
		回答者数	3,104

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.50	1,923 62.1%	900 29.1%	204 6.6%	58 1.9%	13 0.4%	3,098	6
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.37	1,544 49.8%	1,229 39.7%	265 8.6%	46 1.5%	14 0.5%	3,098	6
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.32	637 20.6%	814 26.3%	927 29.9%	350 11.3%	369 11.9%	3,097	7
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.24	1,429 46.2%	1,055 34.1%	537 17.4%	44 1.4%	25 0.8%	3,090	14
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.45	1,791 57.9%	985 31.8%	258 8.3%	35 1.1%	24 0.8%	3,093	11
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.28	1,573 50.8%	1,013 32.7%	347 11.2%	109 3.5%	52 1.7%	3,094	10
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.23	1,489 48.1%	1,048 33.8%	387 12.5%	118 3.8%	56 1.8%	3,098	6
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.32	1,565 50.6%	1,062 34.3%	373 12.1%	60 1.9%	32 1.0%	3,092	12
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.24	1,459 47.3%	1,095 35.5%	400 13.0%	91 2.9%	41 1.3%	3,086	18
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.12	1,184 38.3%	1,305 42.2%	438 14.2%	120 3.9%	44 1.4%	3,091	13
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.21	1,358 43.9%	1,193 38.6%	414 13.4%	86 2.8%	43 1.4%	3,094	10
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.32	1,585 51.4%	1,048 34.0%	337 10.9%	74 2.4%	41 1.3%	3,085	19
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			39.7%	44.8%	13.8%	1.7%	0.0%	58	3,046
2			46.8%	40.4%	12.8%	0.0%	0.0%	47	3,057
3			46.7%	44.4%	8.9%	0.0%	0.0%	45	3,059

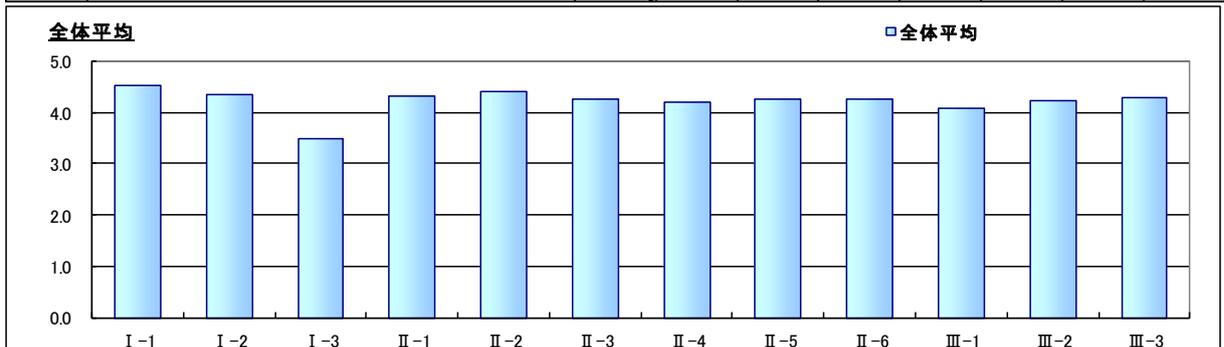


2015年度後期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

受講者数	34,671
回答者数	28,445

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.52	17,853 62.9%	8,037 28.3%	1,942 6.8%	414 1.5%	126 0.4%	28,372	73
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.36	13,913 49.0%	11,381 40.1%	2,619 9.2%	326 1.1%	154 0.5%	28,393	52
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.48	7,015 24.8%	8,167 28.9%	7,236 25.6%	3,009 10.6%	2,864 10.1%	28,291	154
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.32	13,903 49.0%	10,335 36.5%	3,636 12.8%	304 1.1%	172 0.6%	28,350	95
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.39	15,403 54.3%	9,633 33.9%	2,692 9.5%	413 1.5%	237 0.8%	28,378	67
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.26	14,071 49.6%	9,455 33.3%	3,428 12.1%	974 3.4%	446 1.6%	28,374	71
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.19	13,061 46.1%	9,825 34.6%	3,850 13.6%	1,127 4.0%	498 1.8%	28,361	84
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.26	13,292 47.0%	10,200 36.1%	3,821 13.5%	668 2.4%	290 1.0%	28,271	174
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.26	13,687 48.3%	9,746 34.4%	3,769 13.3%	754 2.7%	353 1.2%	28,309	136
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.09	10,264 36.3%	12,181 43.0%	4,422 15.6%	1,031 3.6%	407 1.4%	28,305	140
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.22	12,350 43.6%	11,145 39.4%	3,790 13.4%	669 2.4%	353 1.2%	28,307	138
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.27	13,484 47.7%	10,329 36.5%	3,485 12.3%	598 2.1%	374 1.3%	28,270	175
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			42.4%	35.6%	18.6%	1.1%	2.3%	354	28,091
2			29.8%	42.0%	21.6%	4.1%	2.5%	319	28,126
3			35.8%	40.9%	17.9%	3.2%	2.2%	313	28,132



2015年度後期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体) 徳島文理大学

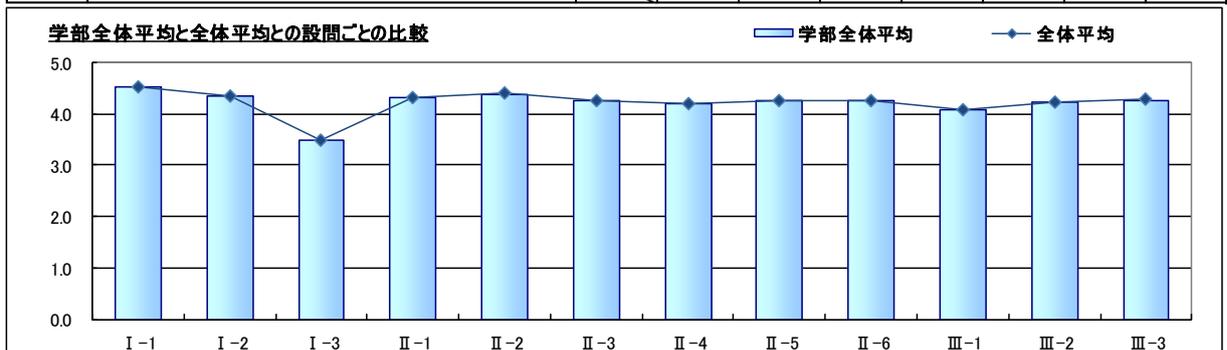
集計単位	学部全体	受講者数	32,088
		回答者数	26,284

No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.53	16,592 63.3%	7,383 28.2%	1,773 6.8%	359 1.4%	108 0.4%	26,215	69
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.36	12,872 49.1%	10,499 40.0%	2,421 9.2%	297 1.1%	146 0.6%	26,235	49
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.48	6,514 24.9%	7,570 29.0%	6,597 25.2%	2,773 10.6%	2,686 10.3%	26,140	144

No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.32	12,883 49.2%	9,537 36.4%	3,336 12.7%	277 1.1%	161 0.6%	26,194	90
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.39	14,166 54.0%	8,914 34.0%	2,528 9.6%	388 1.5%	226 0.9%	26,222	62
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.25	12,940 49.4%	8,749 33.4%	3,196 12.2%	908 3.5%	424 1.6%	26,217	67
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.19	12,000 45.8%	9,094 34.7%	3,588 13.7%	1,055 4.0%	468 1.8%	26,205	79
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.25	12,183 46.6%	9,445 36.2%	3,586 13.7%	634 2.4%	268 1.0%	26,116	168
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.26	12,651 48.4%	8,960 34.3%	3,518 13.5%	695 2.7%	330 1.3%	26,154	130

No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.08	9,403 36.0%	11,268 43.1%	4,134 15.8%	965 3.7%	383 1.5%	26,153	131
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.21	11,375 43.5%	10,289 39.3%	3,529 13.5%	629 2.4%	330 1.3%	26,152	132
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.27	12,394 47.5%	9,549 36.6%	3,266 12.5%	562 2.2%	347 1.3%	26,118	166

No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			44.0%	35.6%	17.0%	0.9%	2.5%	323	25,961
2			30.5%	42.8%	20.2%	3.8%	2.7%	292	25,992
3			37.5%	40.6%	16.7%	2.8%	2.4%	288	25,996



2015年度後期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体) 徳島文理大学

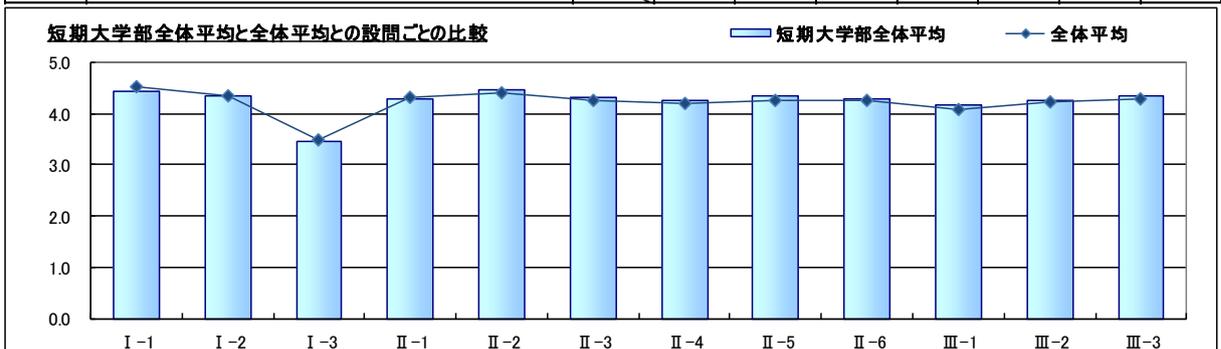
集計単位	短期大学部全体	受講者数	2,583
		回答者数	2,161

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.43	1,261 58.5%	654 30.3%	169 7.8%	55 2.5%	18 0.8%	2,157	4
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.35	1,041 48.2%	882 40.9%	198 9.2%	29 1.3%	8 0.4%	2,158	3
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.47	501 23.3%	597 27.8%	639 29.7%	236 11.0%	178 8.3%	2,151	10

II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.29	1,020 47.3%	798 37.0%	300 13.9%	27 1.3%	11 0.5%	2,156	5
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.46	1,237 57.4%	719 33.3%	164 7.6%	25 1.2%	11 0.5%	2,156	5
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.32	1,131 52.4%	706 32.7%	232 10.8%	66 3.1%	22 1.0%	2,157	4
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.26	1,061 49.2%	731 33.9%	262 12.2%	72 3.3%	30 1.4%	2,156	5
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.34	1,109 51.5%	755 35.0%	235 10.9%	34 1.6%	22 1.0%	2,155	6
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.28	1,036 48.1%	786 36.5%	251 11.6%	59 2.7%	23 1.1%	2,155	6

III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.17	861 40.0%	913 42.4%	288 13.4%	66 3.1%	24 1.1%	2,152	9
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.26	975 45.2%	856 39.7%	261 12.1%	40 1.9%	23 1.1%	2,155	6
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.33	1,090 50.7%	780 36.2%	219 10.2%	36 1.7%	27 1.3%	2,152	9

IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			25.8%	35.5%	35.5%	3.2%	0.0%	31	2,130
2			22.2%	33.3%	37.0%	7.4%	0.0%	27	2,134
3			16.0%	44.0%	32.0%	8.0%	0.0%	25	2,136



「学生による授業評価アンケート」実施要領

平成28年1月
徳島文理大学・短期大学部FD研究部会

平成27年度後期・第4クォーターにおける標題のアンケートについて、下記の要領で実施くださるようお願いいたします。

記

1. アンケートは**授業担当者が配布し、趣旨・記入方法等を説明**してください。
2. **回収と提出は、原則として授業担当者以外（例：各クラス委員、受講代表者など）が行ってください。**なお、**回収後は直ちに提出するよう指示**ください。
3. アンケート実施期間
平成28年1月7日(木)～1月26日(火)
4. 提出期限：各アンケート実施当日
5. 提出場所：徳島キャンパス 1号館1階 学務入試グループカウンターまたは
25号館6階 教育・研究支援グループ
香川キャンパス 各学部事務室

【記入方法及び注意事項】

1. 他学部の学生が履修している科目がありますが、**区別せずに実施**してください。
2. アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「授業アンケートは、授業の改善に役立てるために行います。そのため、一人ひとりの学生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
3. マークシートを学生1名につき1枚配布してください。
4. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
5. 記入には**HBの鉛筆**または**シャープペンシル**を使用するように指示してください。
6. マークシートの「**年度**」「**所属学部**」「**学年**」「**科目コード**」等を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
「年度」・・・15
「所属学部」・・・学生の所属学部。裏面「学部コード一覧表」参照
「科目コード」・・・封筒ラベル参照
黒板に書くなどして、正確なコードを学生に知らせてください。
7. 回答には**約15分間**かけてください。
8. 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
9. その他 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス藤本（内線：8664）
香川キャンパス田中（内線：7552）

授業評価アンケート結果のフィードバックについて（お願い）

日頃は、本学の F D 活動にご理解ご支援いただき、誠にありがとうございます。また、学生による授業評価アンケートへのご協力、心より感謝申し上げます。

さて、今年度実施しました、後期及び第 3 クォーター・第 4 クォーターのアンケート結果がまとまりましたのでお届けいたします。

本学では、平成 20 年度から学生の授業への取り組みや授業内容・方法についてアンケートを取るとともに、その集計結果をもとに「アクションプランシート」を作成し、学生にフィードバックしております。

授業評価アンケートは、学生が教員の授業を評価するだけのものではなく、アンケート結果をもとによりよい授業の在り方を考えていくためのものです。これにより、教員には授業内容の更なる充実、学生には授業への取り組みの向上等が期待されているところです。以下の要領でアンケート結果に対するフィードバック「アクションプランシート」の記入をお願いいたします。

- ①封筒の中には、アンケート用紙と集計結果表が入っています。感想の欄は集計されませんので担当の先生でご活用ください。
なお、アンケート用紙は、担当の先生方で 1 年間（平成 29 年 3 月末まで）保管していただき、それ以降は各自で処分してください。
- ② 3 月 1 日（火）に各先生方のメールアドレスに、ログイン ID とパスワードの案内、アクションプランシート作成依頼のメールが担当業者（教育ソフトウェア）から送られてきます。
- ③メール到着後から、今回のアンケート集計結果と過去のアンケート結果をウェブ上で閲覧でき、経年比較による分析もできます。
- ④アンケート結果の閲覧やアクションプランシートの記入は、送られてきた ID ・パスワードを入力して、ウェブ上で実行してください。
記入項目は「アンケート結果に対するコメント」「今後の授業に向けて」です。
- ⑤アクションプランシート入力期間：3 月 1 日（火）～3 月 16 日（水）
入力期間を過ぎると入力できなくなるので、ご注意ください。
なお、詳細は操作マニュアル（ログイン画面「ヘルプ」で表示）を参照してください。

※その他ご不明な点につきましては、下記『教育・研究支援グループ』担当まで連絡をお願いいたします。

徳島キャンパス：藤本（TEL. 088-602-8664 kawano@tokushima.bunri-u.ac.jp）

香川キャンパス：田中（TEL. 087-899-7552 tanaka@kagawa.bunri-u.ac.jp）

アクションプランシート

2015 年度後期 曜日 ()

科目名 : ()

教員名 : ()

項目見出し	コメント
アンケート結果に対するコメント	
今後の授業に向けて	

平成27年度後期 研究授業

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
10月8日	木	2	人間生活	児童1年	図画工作②	65441	仁宇暁子	14303
11月16日	月	4	人間生活	食物栄養2年	食品衛生学特論	65271	稲井玲子	9202
10月22日	木	3	人間生活	心理1年	心理学研究法	64843	三村都興仁	9602
10月22日	木	4	人間生活	建築デザイン3年	コンピュータ演習Ⅱ	20408	池田文夫	CAD教室
10月26日	月	4	人間生活	メディアデザイン 1年	コンピュータ基礎演習	64631	長濱太造	25号館5階
12月3日	木	4	短期大学	生活科学 食物専攻1年	臨床栄養学	64700	坂井真奈美	9802
12月9日	水	3	保健福祉	理学療法2年	解剖学実習	20112	近藤慶承	23号館6階
12月15日	火	3	保健福祉	看護1年	産業健康保健論	20442	橋本文子	3103
12月18日	金	1	音楽	音楽2年 短大音楽2年	実技AⅣ(ピアノ)	—	村崎和子	5号館6階 アンサンブル室
12月22日	火	2	総合政策	総合政策1年	日本国憲法ベイスックⅡ	65024	青野透	23204
1月14日	木	2	薬	薬3年	薬物動態学1	10013	谷野公俊	24301
1月21日	木	2	短期大学	保育1年	保育内容(表現)B	56315	児嶋輝美	2508 リズム室

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
10月9日	金	3~5	香川薬	薬・臨床工4年	事前学習2	10017	二宮昌樹	DI室
10月13日	火	3	理工	機械創造工1年	機械工学概論	10353	武石賢一郎	工302
11月17日	火	3	理工	電子情報工3年	情報化社会と倫理	10346	河合浩行	4Fゼミ室
11月18日	水	4	文	日本文学	教職科目の現状と課題	—	立山善康	演習室(2)
11月25日	水	4	保健福祉	臨床工3年	操作シミュレーションC	10131	氏原友三郎	17号館 3529
目標設定型								
9/24(木)~2/3(水)			理工	ナノ物質工3年	プロジェクトラボB	—	授業担当者全員	
オープンクラスウィーク								
11/16(月)~11/20(金)		理工	全学科	所属教員担当全科目				

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	()
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対 象 学 生 (授業形態)	()		
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観者数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目			
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

5-1

平成 27(2015)年度
卒業生満足度評価アンケート

実施期間	平成 28 年度 3 月 7 日(月)～3 月 17 日(木)
実施人数	学部 850 名 短期大学部 113 名 研究科 22 名 専攻科 16 名 合 計 963 名
回答数・回答率	856 名 88.9%

2015年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

対象者数	963
回答者数	856

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	321	532	3
	37.5%	62.1%	0.4%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	129	588	119	13	3	4
	15.1%	68.7%	13.9%	1.5%	0.4%	0.5%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	692	43	112	9
	80.8%	5.0%	13.1%	1.1%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	7	82	262	259	61	185
	0.8%	9.6%	30.6%	30.3%	7.1%	21.6%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			438	339	51	21	6		
1	授業科目は充実していましたか	4.38	855	1					
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.24	855	1					
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.33	854	2					
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.37	853	3					
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.14	853	3					
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.40	852	4					

III. 大学の施設および支援体制について

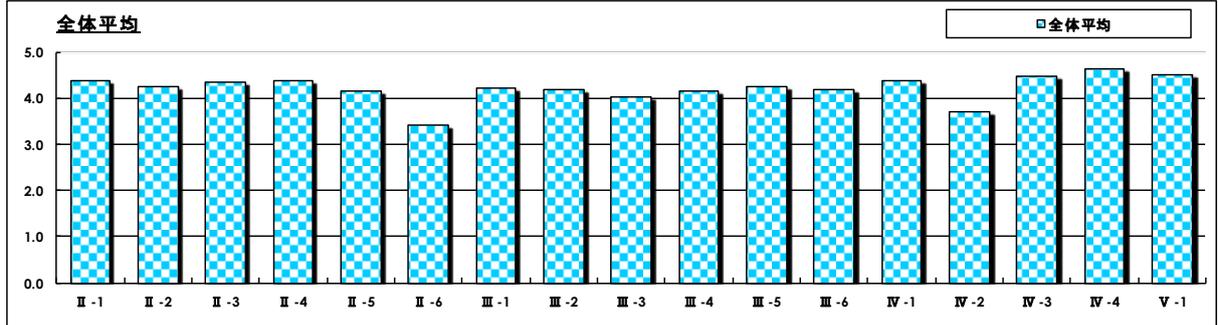
No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			393	310	113	26	12		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.22	854	2					
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.17	853	3					
3	図書館は利用しやすかったですか	4.01	855	1					
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.16	854	2					
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.24	854	2					
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.19	853	3					

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			461	295	66	26	6		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.38	854	2					
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.72	853	3					
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.47	850	6					
4	よき友と出会えましたか	4.62	851	5					

V. 総合評価

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			526	238	56	9	8		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.51	837	19					



2015年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(学部全体)

徳島文理大学

対象者数	850
回答者数	744

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	310	432	2
	41.7%	58.1%	0.3%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	18	587	119	13	3	4
	2.4%	78.9%	16.0%	1.7%	0.4%	0.5%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	602	39	98	5
	80.9%	5.2%	13.2%	0.7%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	7	73	227	233	59	145
	0.9%	9.8%	30.5%	31.3%	7.9%	19.5%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	授業科目は充実していましたか	4.36	371 49.9%	302 40.6%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.21	287 38.6%	355 47.8%	75 10.1%	20 2.7%	6 0.8%	743	1
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.33	378 50.9%	271 36.5%	60 8.1%	23 3.1%	10 1.3%	742	2
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.35	358 48.3%	307 41.4%	58 7.8%	12 1.6%	6 0.8%	741	3
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.12	317 42.7%	265 35.7%	109 14.7%	37 5.0%	15 2.0%	743	1
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.43	151 20.4%	206 27.8%	247 33.3%	83 11.2%	54 7.3%	741	3

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.22	340 45.8%	270 36.3%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.16	336 45.3%	252 34.0%	112 15.1%	19 2.6%	23 3.1%	742	2
3	図書館は利用しやすかったですか	4.01	291 39.2%	251 33.8%	138 18.6%	40 5.4%	23 3.1%	743	1
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.15	303 40.8%	290 39.1%	115 15.5%	25 3.4%	9 1.2%	742	2
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.22	314 42.3%	320 43.1%	75 10.1%	21 2.8%	12 1.6%	742	2
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.16	344 46.4%	243 32.8%	91 12.3%	53 7.2%	10 1.3%	741	3

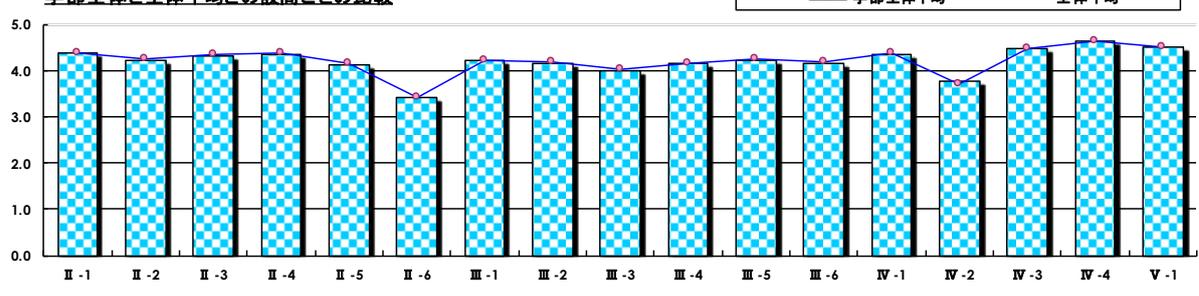
IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	キャンパスは清潔でしたか	4.35	389 52.4%	263 35.4%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.77	261 35.2%	171 23.1%	223 30.1%	47 6.3%	39 5.3%	741	3
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.47	447 60.4%	209 28.2%	70 9.5%	12 1.6%	2 0.3%	740	4
4	よき友と出会えましたか	4.63	533 72.1%	155 21.0%	36 4.9%	11 1.5%	4 0.5%	739	5

V. 総合評価

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.50	451 62.0%	212 29.1%		

学部全体と全体平均との設問ごとの比較



2015年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(短期大学部全体)

徳島文理大学

対象者数	113
回答者数	112

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	11	100	1
	9.8%	89.3%	0.9%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	111	1	0	0	0	0
	99.1%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	90	4	14	4
	80.4%	3.6%	12.5%	3.6%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	0	9	35	26	2	40
	0.0%	8.0%	31.3%	23.2%	1.8%	35.7%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	授業科目は充実していましたか	4.51	67 59.8%	37 33.0%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.48	62 55.4%	43 38.4%	6 5.4%	1 0.9%	0 0.0%	112	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	4.39	67 59.8%	30 26.8%	10 8.9%	2 1.8%	3 2.7%	112	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.49	68 60.7%	33 29.5%	10 8.9%	0 0.0%	1 0.9%	112	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	4.27	51 46.4%	42 38.2%	14 12.7%	2 1.8%	1 0.9%	110	2
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.24	19 17.1%	31 27.9%	33 29.7%	14 12.6%	14 12.6%	111	1

III. 大学の施設および支援体制について

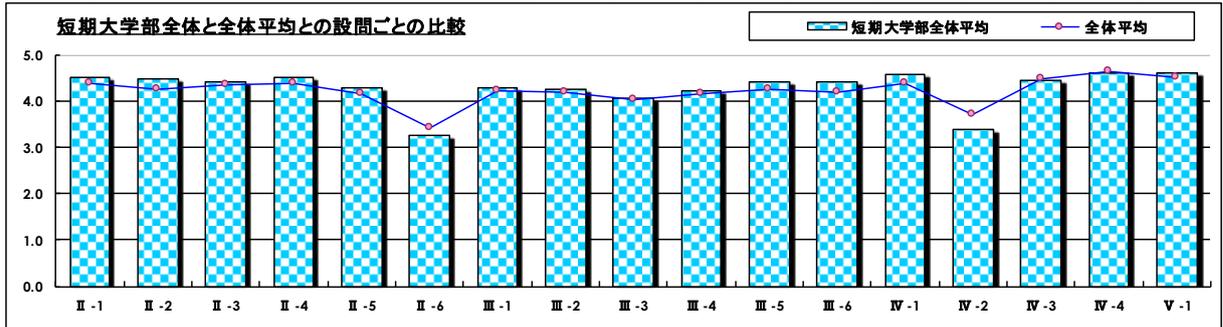
No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.28	53 47.7%	40 36.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.23	53 47.7%	37 33.3%	16 14.4%	4 3.6%	1 0.9%	111	1
3	図書館は利用しやすかったですか	4.06	48 42.9%	34 30.4%	22 19.6%	5 4.5%	3 2.7%	112	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.21	54 48.2%	34 30.4%	19 17.0%	4 3.6%	1 0.9%	112	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.40	57 50.9%	43 38.4%	12 10.7%	0 0.0%	0 0.0%	112	0
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.42	65 58.0%	31 27.7%	14 12.5%	2 1.8%	0 0.0%	112	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	キャンパスは清潔でしたか	4.57	72 64.3%	32 28.6%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.38	29 25.9%	19 17.0%	40 35.7%	14 12.5%	10 8.9%	112	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.45	66 60.0%	32 29.1%	9 8.2%	2 1.8%	1 0.9%	110	2
4	よき友と出会えましたか	4.59	79 70.5%	23 20.5%	8 7.1%	1 0.9%	1 0.9%	112	0

V. 総合評価

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.61	75 68.8%	26 23.9%		



2015年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(大学院全体)

徳島文理大学

対象者数	22
回答者数	21

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	7	14	0
	33.3%	66.7%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	17	4	0	0	0	0
	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	18	2	1	0
	85.7%	9.5%	4.8%	0.0%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	0	0	0	12	4	5
	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	19.0%	23.8%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.67	15 71.4%	5 23.8%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	21	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.81	17 81.0%	4 19.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.71	16 76.2%	4 19.0%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	21	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.81	18 85.7%	2 9.5%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	21	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.48	13 61.9%	6 28.6%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	21	0
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.24	2 9.5%	6 28.6%	10 47.6%	1 4.8%	2 9.5%	21	0

III. 大学の施設および支援体制について

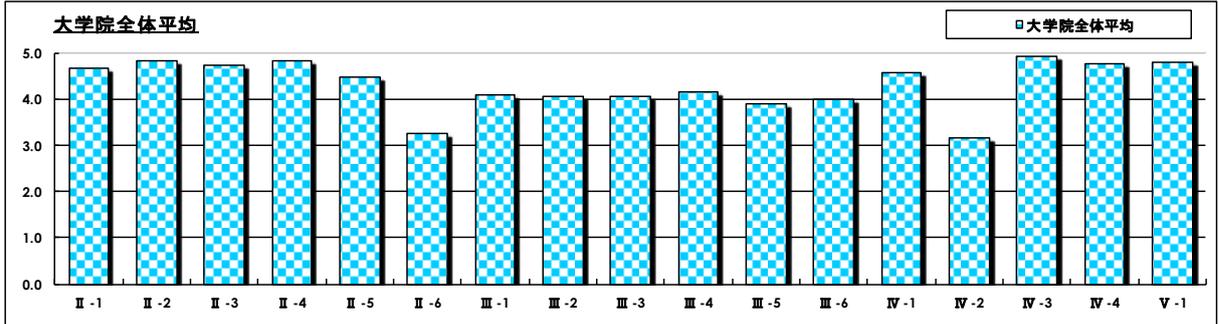
No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.10	9 42.9%	6 28.6%	5 23.8%	1 4.8%	0 0.0%	21	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.05	8 40.0%	6 30.0%	5 25.0%	1 5.0%	0 0.0%	20	1
3	図書館は利用しやすかったですか	4.05	11 52.4%	5 23.8%	2 9.5%	1 4.8%	2 9.5%	21	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.14	9 42.9%	7 33.3%	4 19.0%	1 4.8%	0 0.0%	21	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	3.90	10 47.6%	4 19.0%	4 19.0%	1 4.8%	2 9.5%	21	0
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.00	9 42.9%	6 28.6%	4 19.0%	1 4.8%	1 4.8%	21	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.57	13 61.9%	7 33.3%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	21	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.14	4 19.0%	3 14.3%	10 47.6%	0 0.0%	4 19.0%	21	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.90	19 90.5%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21	0
4	よき友と出会えましたか	4.76	18 85.7%	1 4.8%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	21	0

V. 総合評価

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.80	16 80.0%	4 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20	1



2015年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果(専攻科全体)

徳島文理大学

対象者数	16
回答者数	16

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効	現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効	
	3	13	0		13	0	3	0	0	0	
	18.8%	81.3%	0.0%		81.3%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効	GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	12	0	4	0		0	1	2	7	0	6
	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%		0.0%	6.3%	12.5%	43.8%	0.0%	37.5%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.81	13 81.3%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.81	13 81.3%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.88	14 87.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.81	13 81.3%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.63	12 75.0%	3 18.8%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	16	0
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	2.81	3 18.8%	2 12.5%	4 25.0%	3 18.8%	4 25.0%	16	0

III. 大学の施設および支援体制について

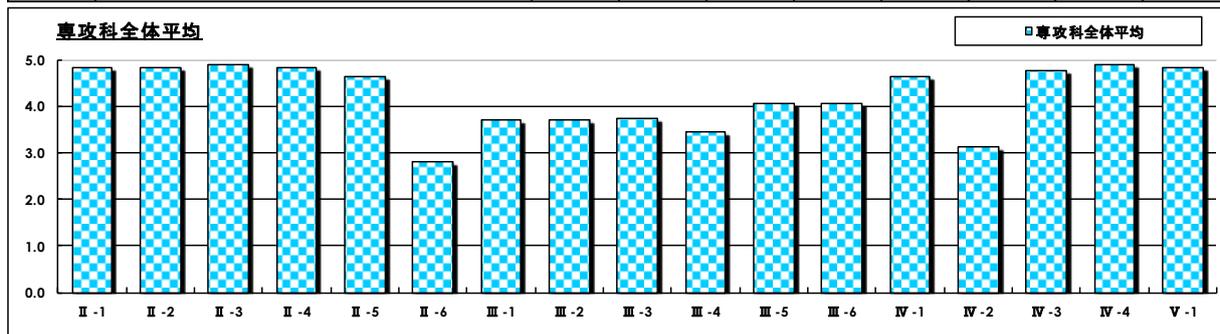
No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	3.69	5 31.3%	5 31.3%	3 18.8%	2 12.5%	1 6.3%	16	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.69	4 25.0%	6 37.5%	4 25.0%	1 6.3%	1 6.3%	16	0
3	図書館は利用しやすかったですか	3.75	4 25.0%	6 37.5%	4 25.0%	2 12.5%	0 0.0%	16	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.44	4 25.0%	4 25.0%	5 31.3%	1 6.3%	2 12.5%	16	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.06	8 50.0%	3 18.8%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	16	0
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.06	9 56.3%	2 12.5%	2 12.5%	3 18.8%	0 0.0%	16	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.63	11 68.8%	4 25.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	16	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.13	4 25.0%	1 6.3%	7 43.8%	1 6.3%	3 18.8%	16	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.75	14 87.5%	0 0.0%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	16	0
4	よき友と出会えましたか	4.88	14 87.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16	0

V. 総合評価

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.81	14 87.5%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	16	0



各大学院・研究科長 殿
各専攻科長 殿
各学部・学科長 殿

FD研究部会

「卒業生満足度評価アンケート」の実施について(ご依頼)

標題のアンケート実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

- 1 卒業式当日の実施を原則としますが、その前後で各大学院・研究科、専攻科、学部・学科の都合の良い日に実施して下さって結構です。
- 2 アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「この調査は、卒業生の皆さんの本学の教育内容や施設、学園生活などに対する満足度を調査し、今後の教育の充実と改善に資するために行うものです。そのため、一人ひとりの卒業生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
- 3 マークシートを卒業生1名につき1枚配布してください。
- 4 マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
- 5 記入にはHBの鉛筆またはシャープペンシルを使用するように指示してください。
- 6 マークシートの「年度」「所属コード」欄に記入・マークする数字は、次のようにご指示ください。
「年度」・・・15
「所属コード」・・・封筒ラベル参照
- 7 回答には約15分間かけてください。
- 8 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
- 9 提出期限：3月18日(金)12:00 厳守でお願いします。
- 10 提出場所：徳島キャンパス 25号館6階 教育・研究支援グループ
- 11 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。

徳島キャンパス 藤本(内線：8664)

F D研究部会活動報告書 第7号

平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

平成 28 年 7 月発行

編 集	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D 研究部会		
発 行	徳島文理大学		
	徳島キャンパス	〒770-8514	徳島県徳島市山城町西浜傍示 180 電話：088-602-8000(代表)
	香川キャンパス	〒769-2193	香川県さぬき市志度 1314-1 電話：087-894-5111(代表)
